

今年の教区の目標

われら皆 和解の器
平和の担い手

〒902-0067 那覇市安里3-7-2

カトリック那覇教区本部

TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474

発行人 W.F.バートン司教 1部40円

<http://www.naha.catholic.jp/>

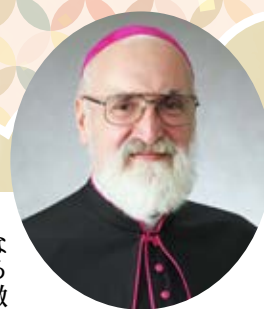
(1) 2023年4月1日 (毎月1日発行)

カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ

第773号 (4月号)

主に望みをおく人は新たな力を得る

(イザヤ 40:31a)



カトリック那覇教区長

ウエイン・F・バートン司教

兄弟姉妹の皆さん

ご復活、おめでとうござい
ます。特に復活の主日、復活の聖

なる徹夜祭で入信の秘跡を受ける皆さん、おめでとうございます。新しい兄弟姉妹を迎えることで那覇教区の共同体がさらに豊かになります。心からお慶びと感謝を申し上げます。

「復活」という言葉を言われると死者の復活を考えます。イエスさまが復活されたように私たちも復活の希望をもっています。しかし皆さん、復活を信じてと言ってもたいていの人は自分の死を考えると恐れを深く感じます。やはり死も復活も神秘なのです。

神学生時代にホスピスで奉仕していました。シスターたちは女性のケア、私たちは男性のケアでした。ここに入院した皆さんは、回復のためではなく、亡くなるためでした。ある方は亡くなるその日まで、自分は絶対に死なないと考えていました。他方、別な患者さんは自らの死を準備しました。家族の皆さんと和解をしてから財産処理などの課題に取り組んだのです。また、ある方は死を喜んで迎えました。長く、辛い闘病生活や激しい痛みなどがあつたので、解放の時を待ち望んでいたのです。

人間の死には実に様々です。若くして死ぬ人もいれば、年をとってから亡くなる方もいます。急に亡くなる人もいれば、徐々に死を迎える方もいます。非常に安らかな死もあれば、壮絶な苦痛に悶えて苦しむ死もありま

す。病気で亡くなる人もいれば、思わぬ災難で亡くなる方もいます。このように死に方は様々でも、確実なことは、人間必ず死を迎えるということです。ですから誰もが、百パーセントの確実さで訪れる自分の死に対して、あなたはどうか備えて持つて生きているか

ということが問われています。

ある専門家によると死への備えは以下のようなことだそうです。

一、あなたの人生において大切な人を認めましょう。

二、あなたの人生において大切な瞬間を思い出しましょう。

三、愛する人を傷つけていたら謝りましょう。

四、あなたが愛している人があなたを傷つけたことは許しましょう。

五、受けたすべての愛とケアに感謝の気持ちを伝えましょう。

六、友達や家族に、どれだけ愛しているか伝えましょう。

七、最後に「さようなら」と言ってください。

専門家の考えは良いものですが私にとっては物足りないです。私たちが死と向き合うときの力は信仰から、神様から頂きます。神様は私たちのいのちの源より所だからです。
私が死と向き合うときの考えは、以下のようです。

福音にかなう生活を生きる。

「この恵みは」今や、私たちの救い主キリスト・イエスの出現によって明らかに

(二ページへ続く)

されたものです。キリストは死を滅ぼし、福音を通して不滅の命を現わしてくださいました。」 II テモテ一・10

神によつて生かされている人生を歩む。「わたしたちは、生きるとすれば主のために生き、死ぬとすれば、主のために死ぬのです。従つて、生きるにしても、死ぬにしても、私たちは主のものです。」

ローマ十四・8

神への信仰に生きる。

「あなたの信仰があなたを救った。」

マルコ十・52

すべてのことに関して神に頼り、委ねる。「主よ、あなたはすべてを知っておられる。前からも後ろからもわたしを囲み御手をわたしの上に置いていてくださる。」 詩編二三九・4 b・5

ヨハネ十一・4

イエスは言われた。

「わたしは、復活であり、命である。私を信じるものは死んでも生きる。」

ヨハネ十一・25

人によつて死と生についての考えは違っていますが、人は皆、神の定められた時に、いのちの源である神の世界に旅立ちます。その時「主に望みをおく人は新たな力を得、鷲のように翼を張つて上る」(イザヤ四十・31)のです。

I AM HERE...I AM EVER WITH YOU

Our journey is attributed to the life of Jesus. We encountered along the way a life that is full of surprises; a joyful journey or a challenging one. Yet along those walks in life is the assurance of Jesus that He is always with us no matter what will happen.

The story of the Paschal Mystery “Passion, Death and Resurrection of Jesus” has reminded us that in every storm we encounter in life, there is a Resurrection that awaits. There is always a rainbow that will come after a series of heavy rain. Sometimes we give the best that we can to achieve the dream that we want to happen, but if it is not the will of God for us, no matter how eager we try, it will never be given to us. God knows what the best for us and all we have to do is surrender and say “Lord, You can take over. I don't have the control but You alone”.

This attitude of surrendering is an indication that we fully trust His ways. When we experience darkness in our lives or an unclear pathway that we don't know where it will lead us, we must bear in mind that God's love and presence are with us. As He said, “I am with you always until the end of time” cf.Mt.28:20.

Before I end this reflection, may I share to you this song that keeps on inspiring me especially when I feel that I am facing a challenging pathway. God has reminded me saying,

“I AM HERE... I AM EVER WITH YOU”.

by Sr. Ivy B. Bayno,OND



I Am Ever With You

By Fr. Arnel Aquino, SJ

Do not let your hearts be troubled
Do not stay afraid
It is really I whom you see
I offer you now my peace

I have waited for this moment
To be with you again
In my heart you'll remain
In your heart I'll stay

Refrain:

I am with you till the end of your days
I am in you, have faith
That I hold you even when you let go
And I love you, you must know
I am here. I am ever with you.

Do not let your hearts be troubled
Do not stay afraid
I'm beyond all anguish all death
I'm risen to life anew

When you feel that you've been emptied
And can give no more
Know that I am your breath
And I fill your soul.
(Refrain)

Reference:
www.youtube.com

2023年3月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時：2023年3月7日(火) 10:30～12:00

会議の前にヨアキム神父の司式で聖体賛美式が捧げられた。

1. 報告及び連絡事項：司会はボスコ神父が担当。

- ・前回(2月会議)の報告を新田が行い、承認された。
- ・2/11日(土)に行われた「教区の日」について、担当のフランシス神父より報告が行われた。女性の会の協力を得て準備を進めて臨んだが、久しぶりの行事に予測できなかった面も多く、反省させられる点が多かった。次回以降に向けてはあれこれ検討が必要であると感じた。司祭たちからは開催に漕ぎ着けたことへの評価と共に、修正点の提案などの意見もあり、今後に活かして行く旨担当者から感謝が述べられた。概ね250名余の参加であったことも合わせて報告された。
- ・ウェイン司教もから東京で行われた司教会議の報告が行われた。叙階式と献堂式について新しい式文が出されたが、葬儀や聖週間の典礼についてはまだ完了しておらず、「主の晩餐のタペのミサ」の変更についても報告があったが、新しい式文が出されるまでは、現行のものを使ってミサを行うよう指示があった。その他、聖フランシスコ・ザビエル、日本26聖人殉教者については、日本における大きな記念日として式文が準備される予定であるとの報告があった。また、司教協議会に要望のあった、フィリピン人移住・移動者のための特別教区、属人区の創設については、日本の教会としては受け入れられない旨返答したことが報告された。コロナ禍で休止となっていた韓国と日本の司教団の交流会も東京で開催が予定されていることや、日本のカトリック学園の抱える課題について、前田大司教から報告があったことなど、ウェイン司教から司教会議の様子が語られたが、会議では、シノドスについて1番多く時間が割かれたとのことであった。
- ・3月3～4日に正平協の全国会議がズーム会議で開かれ、ジェンダーについて大きな議論となった。司祭、修道者、信徒それぞれが様々な問題を抱えていたとしても、教会は門を閉ざすべきではなく、上意下達ではなく、皆で話し合い、それぞれの意見も聞いて判断して欲しい旨、司教から要望があった。
- ・日本の司教団は、毎年、「四旬節の第2金曜日」、今年は3/10を「償いの日」とすることを申し合わせて、被害者の痛みと苦しみを想い、その回復のために祈りと償いをささげるよう促している。式文も用意されているので、司祭たちはこれを活用するようウェイン司教から要請があった。
- ・3/25日の「神のお告げ」の祭日について、ウェイン司教から要請があった。この祭日には「ヌチドウ宝」、命の尊さについて考える機会とし、ミサの説教でも命の尊さについて語るよう要望があった。
- ・開南教会の古川神父より、有馬神父の様子が報告され、多少記憶に問題はあるが、予約の上、面会可能となっていることが報告された。

2. 審議事項

- ・ウェイン司教からマイケル神父と共に参加した福岡のカトリック神学院の今後について、会議の報告と意見が述べられた。5月に再び討議されるので、継続審議となっているが、神学生も少なく、建物や土地の維持管理が大きな負担となってくるので、今後は神学生を東京の神学校で養成する等の対応が求められる旨の報告がなされた。
- ・司教訪問、司教の予定について、マーシーさんから報告があった。4/2日、枝の主日、開南教会で9時半からミサを主式。4/4日、火曜日の午前10時から安里教会で聖香油ミサ、ミサの後、昼食を挟んで、午後2時から司祭助祭拡大会議。4/6、聖木曜日、開南教会で午後7時から主の晩餐のミサを主式。4/7、聖金曜日、安里教会で午後7時の聖金曜日の典礼を主式。4/8、午前中は石垣海星小学校の入学式に参列。午後7時から開南で復活徹夜祭のミサを主式。4/9、復活の主日、具志川教会公式訪問、午前10時からミサを主式。
- ・3教区合同黙想会について、津波古事務局長から報告があった。現在45名の申込みが来ている。那覇教区の司祭たちも、近隣から通うのが難しい司祭たちはホテルを申し込むよう要請があった。
- ・「慰霊の日」については教区平和委員会等で準備を進めていくことが報告された。
- ・「聖週間」の典礼については、旧来の式文に新しくなった式文を織り交ぜた暫定版なので、正式に認証されてからの導入が望ましいとの意見が司教から述べられた。また、聖歌やパーティーの開催など、小教区の判断に任せるが、弱者への配慮を怠ることなく、工夫して、縮小していた典礼も元に戻していくよう要望があった。
- ・シノドス、「大陸ステージのための作業文書」については継続審議とすることが了承された。
- ・病休していたSr.中村からの開催の要請を受けて、5月からカテキスタ要請講座を開始することがウェイン司教より報告された。
- ・石垣助祭から、教区聖歌隊カンタ・カトリカのメンバー募集の呼びかけに司祭たちが協力してくれるよう要請があった。
- ・ナビン神父から、ワールドユースデーへの青年たちの参加を呼びかけて欲しい旨、要請が行われた。
- ・教区事務局長より、渡し忘れていた予算書が司祭たちに配られ、小教区で協議して、早目に提出されるよう要請が行われた。
- ・次回司祭助祭拡大会議は4/4日、(火)に、午前中の聖香油ミサと昼食を挟んで、午後2時から行われることが報告された。

2023年3月16日 承認：ウェイン・フランシス・パント司教 記録：新田 選



イエスは生きている！

サニー・カンティラーノ神父

具志川教会 主任司祭



な個人的な確信が必要です。私たちはこの地球上で生きていて、善を行い、悪を避けるという使命を持っています。

今日のイースターのお祝いや主の復活の記念には、カトリックのキリスト教徒としての私たちの宗教を扱う上で、具体的な証拠と鮮やかな証拠があります。私たちにとつて、イエスを常に求めることは、生き方そのものです。私たちは、悪

魔から来るどんな働きも受け入れる必要はありません。むしろ、カトリックのキリストチャンとして、私たちはイエスの教えと模範を受け入れるべきなのです。

私たちは、死の意味と私たちの経験について深く考察します。死よ、あなたの刺はどこにあるのか！あなたは生きておられます。私たちは、イエスがなさったすべてのことの証人なのです。（使徒十・

39）。イエス・キリストがこの地上で行った最後の、そして最も英雄的な行為は、死そのものにさえ打ち勝つ時です。息を引き取る最後の数秒間でさえ、私たちはまだ

命のために戦いたいと願っています。繰り返しますが、私たちはイエス・キリストがいなければ、命を失うギリギリのところにいるのです。イエスは道であり、真理であり、命である（ヨハネ十四・6）。イエスから離れることは死であり、イエスと共にいることは命の充足である。私たちは皆、イエスがいない状態で生き方を知り、経験しています。また、私たちの主イエス・キリストの存在下での生活も経験します。私たちは、日々の体験の中で、生と死を分けるために生き、犠牲を払うべきです。私は、薬物、ギャンブル、アルコール、セックスなどの依存症に関するリハビリテーションセンターを訪れましたが、人々はこの種の問題に巻き込まれています。私たちは、このような問題から免れることはできません。私たちは、依存症の問題に直面した人々の証言から、イエスだけが理由であり、癒し手であり、救い主であり、彼らを理解し、救うことができる方であることを常に聞くことができます。本当に、イエスは生きておられます。

私たちは、人生を肯定し、祝福すべきなのです。喜びましょう。イエスは生きておられます。

今日の祝賀会では、家庭と社会を守るために自分の役割を果たし、大きな変化をもたらした女性を肯定し、認め、感謝を捧げます。彼女たちは、主の復活を宣言する上で重要な役割を示しました。私たちはまた、より多くの女性が参加し、その存在が教会や地域・社会でのロールモデルとしてさらに実りあるものになるよう奨励すべきです。家庭的な精神という古いイメージは、家庭、教会、地域社会の内外で、献身、犠牲、導きへと昇華されるべきなのです。ここでは、イエスの母マリア、マグダラのマリア、マルタなど、社会と教会のために大きな犠牲を捧げ、捧げようとしている女性やマリアを同様に強調します。ここで、キリストは私たちの救いのために生ける犠牲となられました。今日、私たちが喜ぶべき方法と理由はたくさんあります。私は、イエスは生きておられるのだから、喜びなさいと言いました。最初の人間（アダムとエバ）が神に対して罪を犯したとき、すべての人が死に追いやられた。イエスが人類を受け入れ、第二のアダムとなられたとき、すべての人は救われ、命を得たのです。母親が初めて赤ちゃんを産

むとき、大きな痛みと苦しみがあります。しかし、出産し、その苦しみから生還した後、彼女の心の中にある幸福は、どんな喜びも表現することができない。赦しを受けた罪人たちの幸せは、喜び以外の何物でもありません。イエスは死者の中からよみがえられたのです。

最後に、幸せな人は平和な人である。幸せな人からいつも聞こえてくる言葉、見えてくる言葉は、感動と伝染する気持ちの言葉です。私たちは、その感動を胸に秘めておくことはできませんが、その幸せを他の人に伝えることができます。それは、良い知らせを伝える者自身がその知らせであり、人生の意味を探しているすべての人に広がるメッセージであるため、世界中のあらゆる場所で生きた福音の証人となるよう招かれています。

私たちは、イエスが生きておられ、私たちの間に住んでおられることを確信しなければなりません。私たちは、イエス・キリストとともに生き、癒され、世界を神とともに取り戻すために、自分の役割を果たすべきであると思います。

イエス様がこの世に生まれ、その使命を果たされるとき、イエス様の言葉は両親への服従である。

（五ページの下へ続く）

声

角笛

亡父に寄せて

安里教会 宇根 敦子

雲ひとつない晴れ渡った朝、父のベッドを囲んだ私たち家族に病室の窓から朝日が降り注いでいました。誰もなしにつぶやいた「いい日に旅立ちを迎えるね」を、皆が口々に父に伝えました。穏やかで美しい朝に父は天国へ旅立っていました。

父は肺炎のため入院し、ほどなくして緩和ケアへの移行が決まりました。呼吸苦の苦しみを取り除くため看護師と連携する見守りの中で、神様がひとり一人の人生に寄り添ってくださっている実感する機会を父が作ってくれたのだと思うことが多々ありました。父は苦しいことやつらいことが大嫌いでした。非常に神経質で体に異変があると感じるとどうにかしなければと周りを巻き込んで行動を起こしました。入所施設でもいったん父が健康上の不安を感じ始めると常駐の看護師では対応できないと、私に連絡が来ました。何度救急病院やかかりつけ医と一緒に足を運び、なだめ、励ましたことか……。

でも実は父の体は非常に頑健で

問題ないことがほとんどでした。私は「体は頑健なのに心が病弱なんだね」と医師から「何でもない」と告げられた救急や病院からの帰りに、ため息交じりに父と笑い合ったものです。父は「気にしすぎだな」と苦笑いするものの、また同じことを繰り返すのでした。しかし父は人生の最後において、命を燃やし尽くすための道のりを、ひとりで苦しい息と闘いながら歩きとおしました。イエス様が十字架を背負い悲鳴を上げる肉体と闘いながら、自らが磔となるゴルゴダの丘を目指したように。

私は、人が罪のゆえに樂園を追われ、産みの苦しみと肉体の死を乗り越えなければ神様のもとへと帰っていけないこと、また肉体の死を乗り越えるときは人それぞれに痛みや苦しみを伴い、それを避けて天の国への入口は通れないことを痛切に理解したのでした。それでも死への怖れが増すことはありませんでした。そのときには神様がそばに付き添ってくださるのだということに、どれほどの勇気をもらったでしょう。父は最後に、神様に寄り添われながら、あんなに嫌がって避けてきた苦しさを身に受けて歩み切ったのでした。

父を見送った寂しさにもまして、父の霊魂が常に私たち家族を見守ってくれているという心強

さを感じます。まだ天の国への旅の途中かもしれない父には過大な期待？かもしれない。父の魂が神様のもとで安らぎを得ますようにと祈っていきたいと思います。葬儀の際の謝辞で皆様と分かち合いたいことを述べました。最後に抜粋して引用したいと思っています。

父は石垣市に誕生し、社会生活の第一歩から退職まで一貫して公務員として働きました。本土復帰までの二十一年を琉球政府立法院、復帰後は高速道路やモノレールの用地取得に関わり、県大坂事務所長や八重山支庁長を歴任した経験を持ちますが、その基礎となったのは東京の国会参議院速記記者養成所で学んだ二年間でした。

公務員時代は職責を果たすために勉強と努力を重ね、その努力の結果の充実した社会生活であつたと思います。引退後、共に信仰の勉強を深めた母を二十年前に病気で失った後、次第に歳を重ねていく自分自身に不安と心もとなさを覚えるようになったのは自然の流れだつたと思います。それを受け入れようともがきながらも努力する姿は、そばで見守る者に、人にとつての大切なものが何であるかを学ばせてくれる、とても貴重な経験を与えてく

れました。仕事の上でたくさんのかんことを成し遂げた父よりも、何もできなくなっていく年老いた姿の父、敬虔にそれを受けいれようと行きつ戻りつ努力する父、自らが弱くなったからこそ神様が与えてくださった恵みをひしひしと感じる父のほうを、うんと尊敬できたと思います。

父が入院する三週間前のことです。今にして思えば、父はそのころから体調が優れなかったのではないのでしょうか。やがて自分の不調や自分自身ばかりに目が行き、一緒にいる者を全く気にかけない言動が目立ち、傷つけられることもありました。私は涙をこぼしながら父の行動に愛が見られないと不満をぶつけました。一瞬後に父が口にした思いやりあふれる言葉、それから入院するまでの日々に見せた愛情あふれる態度は温かく、私の心を癒しました。神様が人の心に造った光は決して失われず、他者のための愛によって大きく輝きまわりを照らすのだと実感し、いつまでも私の心に残る父からの信仰の贈り物となりました。

父の魂が安らかに憩いいつか私たちと復活の栄光の内に巡り合いますように、また天の国で皆様の健康と幸せのために祈ってくださいように。

彼の世界では、まだ使命を果たす時期ではないが、聖母の助けと執り成しによって、私たちの日常は神の祝福の多くの可能性と機会に変わるはずである。私たちの多くの癒しと健康の体験は、奇跡の体験に変わるはずで。私たちは「主は私たちを見捨てたのではない」という前向きな姿勢と思考を持ち続けるようにしよう。

私たちは映し出され、経験し、生きて、イエスが生きておられることの証人となったのです！私たちは、人生の中で多くの死の兆候を経験するたびに、互いに励まし合い、じつと立ち上がり、生命への信仰を持つべきです。私たちは、ある状況を、インスピレーションを与える機会として見、経験し、現す勇気を持たなければなりません。勇気と希望と信仰を持つために、私たちはイエスを私たちの側に招き入れるべきです。私たちも死に打ち勝つことができます。イエス・キリストにおいて、私たちは「イエスは生きておられる！」と宣言することができ。主は死からよみがえられたのです！

私たちは、互いに祝い、分かち合い、挨拶し、イースターの季節の精神に生きましょう！すべての人に、祝福されたイースターのご挨拶を！

教区 NEWS 教会

四人のシスター終生誓願

与那原教会

二月二日、聖マリアの汚れなき御心のフランシスコ姉妹会の四人の姉妹の終生誓願式が与那



4 人のシスター、左 2 人目から Sr. 仲谷、Sr. マリア、Sr. テレジア、Sr. アン

原教会で行われ、修道会も教会も喜びに包まれました。

シスターアン、シスターテレジア、シスターマリアはベトナム出身。神様のお招きに応えて、二〇一〇年九月に来島、二〇一六年初誓願。シスター仲谷洋子は、熊本県山鹿教会出身で二〇一五年に志願。修練を経て、二〇一七年に初誓願、そしてこの日を迎えました。ベトナムからそれぞれのご家族、山鹿教会から信徒の方がた、お世話になった岩崎神父様も来られ、教区の信徒と共に、喜び、祝いました。

ウエイン司教の主司式のもと、二人の司教、十数人の司祭たちが共同司式でミサを捧げ、四人のシスターは、厳かに生涯を神にささげることとを誓いました。先人たちが歩んできた道のりを自分の歩幅で前に進まれることを願っています。いつの時代も信仰の根本そのものは変わりません。

次の文言を祝いの

ことばとしてお送りします。

「シスターたちは、無原罪のマリアの愛と犠牲に倣い、修道の美德を深めるように促されます。姉妹たちは、そのようにすることを約束し、神の御心に完全に身を捧げるといふ恵みを乞います。」

(押川壽夫訳・編「カトリック琉球列島ミッシン」四四四頁、一九六一年、この修道院で初めての着衣式、誓願式の様子を伝えるカプチン会の手紙より)

(佐藤芳樹)

感謝の交流会

石川教会

石川・市民クリスマスは二〇二二年から始まりました。うるま市石川にある五つのキリスト教会（カトリック・プロテスタント）と別地域からの有志が集まり、毎年趣向を凝らした内容で地域の住民とともにクリスマスを祝っています。

礼拝では共に祈り、賛美歌を歌い、聖書を基にしたメッセージがあり、クリスマスの意義を伝えます。続くお楽しみ会では、各教会からの歌や楽器演奏、紙芝居等もあり、更には多忙の中練習を重ねた各教会の神父や牧師たちの合唱も披露されます。

近年はコロナ渦で集まることができず淋しい思いをしています。さて、市民クリスマス当日を



迎える前には、各教会の代表者が集まり、プログラム内容やその他について話し合うことで有意義な関係が構築されていきました。そのような中、ある教会の方々と質問を受けました。「シスターって日本人もいるんですね!」、「どうしてあのような格好をしているのですか?」、「声をかけてもいいのでしょうか?」。驚きました。

何十年も地域にある教会や幼稚園、街中のスーパー等で見かけることはあっても、その正体(?)についてはほとんど知られていなかったのです。思えばそのような事例はどこでもあること

なのではないのだろうか、と考えさせられました。

そのようなおり、石川地区で三十八年にわたり宣教や幼稚園運営に励んでおられたイエスのカリタス修道女会が沖縄から撤退することを知りました。そこで、先述の疑問等について、今のうちに直接シスターたちに尋ねる機会をもつてはどうかと、重元清牧師に提案したところ、去る十月にシスターお二人で石川福音教会に招かれ、交流会が開催されたのでした。

どうしてシスターになろうと思ったのか?出身地はどちら?とか多くの質問が出て、それぞれに丁寧に答えたり、お互いの教会に親戚が属しているとか、孫が幼稚園に通っていたとか思いがけないつながりを確認でき、和やかに楽しい時間を過ごすことができました。

それぞれがその存在を知りながら、案外ほとんど関わる機会がないことはとてももったいないことだと思われまます。「キリスト教はいつもケンカ(戦争)ばかりしているよね」とクリスチャンでない方から非難されたりもします。まずは地域のクリスチャン同士がお互いを知ることによって仲良くしていくことから平和が生まれるのではないかと思います。(山田圭吾)

洗礼式

石垣教会

三月十一日(土)、石垣教会で野田和男さん(九十歳)と砂川隆さん(七十九歳)のお二人が受洗のお恵みを頂きました。

お二人とも家族は信徒で、家族の勧めとご本人の希望で昨年は何度かミサにもいらつしやいましたが、最近はお顔が見えませんでした。家族にお話を伺うと「ミサに座っていることが少し難儀になっている」とのことです。神父さん、シスターと相談しまして自宅に訪問してお勉強し受洗の準備をしましうと、お二人の家族にお伝えしました。

ところが野田さんの奥様からは、「主人は昨日入院しました」とのこと。入院した場合、今のご時世、面会は難しく教理の勉強どころではありません。「あー、申し訳ない。もっと早く情報を得、行動しておけば」と悔やまれました。一週間が過ぎたころ、「二応退院して自宅に戻りました」と奥様から連絡がありました。早速、神父さん、シスターとご自宅を訪問し洗礼式を行いました。ベット上での洗礼式でしたが主の祈りもキチンと唱え、安らかな晴れやかなお顔で「ありがとうございます」とおっしゃるお姿に神様の愛に満ちた計ら

いを感じました。

砂川隆さんも状態が思わしくありませんでしたので、家族とご本人との相談の上、洗礼式を行うことにしました。ベットサイドに腰かけての洗礼式でしたが、安心したお顔が印象的でした。お二人とも「ヨセフ」の霊名を頂きました。

今回の件で、「来る人だけを迎える教会」ではなく「出かけていく教会」でもないといけないと痛感しました。教会のメンバーやその家族との関わりを密にしていかなければと反省しきりです。

(石垣教会宣教委員 神山隆子)

普天間教会

二〇二三年世界祈祷日

三月の第一金曜日(三月三日)、午前十時より聖パウロカトリック普天間教会において、二〇二三年度の世界祈祷日が開催されました。世界祈祷日はカトリック、プロテスタントの各教派を超えて、女性たちが推し進めてきたエキュメニカルな活動です。毎年テーマが決まっております。今年はエフエソの信徒への手紙 一・15〜19「あなたがたの信仰について聞いています」をテーマに、台湾の女性たちの苦しみ、不正に焦点をあてた祈祷会でし



た。多くの教会から、女性を中心に多くの方々が集まり、聖堂はいっぱいになりました。

まずボードに台湾の外枠だけの地図があり、五人の女性がそれぞれ五つの地図パズルをはめ込んで、台湾地図を完成させて、祈祷会が始まりました。

歓迎、あいさつ、聖書のことば、讃美歌と続いた後、台湾の立場の違う五人の女性の手紙形式による信仰の話が読まれ、とりなしの祈りと続きました。その後、台湾の現状を過去の歴史と合わせて考える説教がありました。最後に、主の祈りを各派、それぞれの言葉で祈って閉会と

なりました。

祈祷会終了後、場所を中庭に移して、普天間教会が準備した湯茶とお菓子で、交流の機会が持たれました。参加者一同和気あいあい、親交(そして信仰を)深め、有意義な世界祈祷日の集会成为りました。(花城喜美江)

マリア様に

一〇〇〇のロザリオ

去る三月十一日土曜日に普天間教会にて、クルシリオというグループの主催で、マリア様に一〇〇〇のロザリオの祈りを捧げました。意向と共にロザリオを二十環祈り、その後分かち合い、そしてミサがありました。

朝食後、午前九時三十分より開始し、ロザリオの祈りを全て終えると十五時です。なかなかの長丁場ですが、不思議と疲れは感じませんでした。外国人も日本人も共にそれぞれの言語で祈りを捧げました。祈る中で雑念が消えて行くのを感じ、その空間でマリア様の思い、イエス様の思いに身を馳せながら、自分が何を恐れているのか、はつきり感じ取ることが

できた瞬間がありました。長い祈りの中でたった一瞬のできごとでした。

次のステップへ進む力をいただいたと思っています。一人の力ではできない体験をさせていただき、有意義な一日となりました。

最後に、クルシリオとは、信心・研究・活動を三本柱とした研修活動を行うグループです。言葉に導かれて自己の体験を掘り起こす研修を行います。世界各国、日本本土でも活動が行われています。皆様の参加をお待ちしております。(石原早苗)



平和を求める祈り

平和の源である神よ、
 今なお激しい戦闘が続く〇〇〇(国や地域の名を加える)では、
 平和を望む多くの人が犠牲となっています。
 苦しむ人、虐げられている人を支えてくださるあなたに祈ります。
 国々の指導者を正しく導き、
 憎しみではなく愛を、
 争いではなくゆるしを、
 分裂ではなく一致を求める心をお与えください。
 住む家をなくし、恐怖と不安の中での生活を強いられている人々を
 力づけ、心と体に安らぎをお与えください。

すべての人に、争いや暴力を退け、
 平和を実現しようとする強い意志をお与えください。
 いつくしみ深い神よ、
 この世界に聖霊を豊かに注ぎ、
 敵対する人々の心から怒りの炎を消し去り、
 絶望にあえぐ人々の心に希望の火をともしてください。
 あなたが望まれる和解と平和が、一日も早く実現しますように。
 わたしたちの主イエス・キリストによって。
 アーメン。

(2014年9月4日 常任司教委員会承認) 日本カトリック司教協議会)

 那覇教区平和委員会

日 時：4月23日(日) 14:00～
 場 所：安里教会
 講 師：谷 大二 司教
 演 題：清貧が地球を救う (教会とSDGs)

4月
例会

カトリック那覇教区平和委員会
 問い合わせ ☎090-1949-6569 (稲福)

聖香油ミサ

4月4日(火) 午前10時～ 安里教会

洗礼や堅信、叙階式に使われる聖香油を聖別し、
 病者の塗油に使う油、洗礼志願者の油を祝福するた
 めのミサです。祝別された油は、各小教区に配られ
 ます。ミサの中で、司祭は叙階式の誓いを更新しま
 す。司祭制度誕生の記念日だからです。教会は、信徒
 たちがミサに与かり、司祭のために祈ることを勧め
 ています。

訃報

◆名護教会

イグナチオ 座喜味 五一様
 二〇二三年三月四日 帰天
 享年八十五歳

◆安里教会

マリア 下地 利恵子 様
 二〇二三年三月二十五日 帰天
 享年六十二歳

◆愛楽園教会

アンデレ 平良 清蔵 様
 二〇二三年三月二十七日 帰天
 享年九十九歳



NPO 法人ぶどう園の会



訪問看護ステーション クララ

TEL&FAX:098-937-5001

住所 沖縄市泡瀬2丁目37-15

・基本受付 月曜日～金曜日(申込、相談など)

・営業時間 8:30～17:30

・営業日 24時間365日(緊急対応含む)



葬祭の
「やすらい企画」

私たちは故人とご遺族の意向
 を最優先に考えます。何でもご
 相談下さい。

那覇市首里鳥堀町4-57-3

TEL&FAX:098-885-8205

<http://w1.nirai.ne.jp/yasurai>

E-mail: yasurai@nirai.ne.jp

24時間
受付

～ご遺族の心をもって奉仕する～
 そうてんしゃ

葬 典 社

*創業30数余年・・・。

*皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるための
 お手伝いをさせていただいております。

*ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。

「ゆうなの会」会員募集中です。

ひ が たかしげ
 (実務担当) 比嘉 高茂

24時間
受付

てんごく
 ☎098-853-1059

